

ごみと灰の処分方法

■ごみの分類など

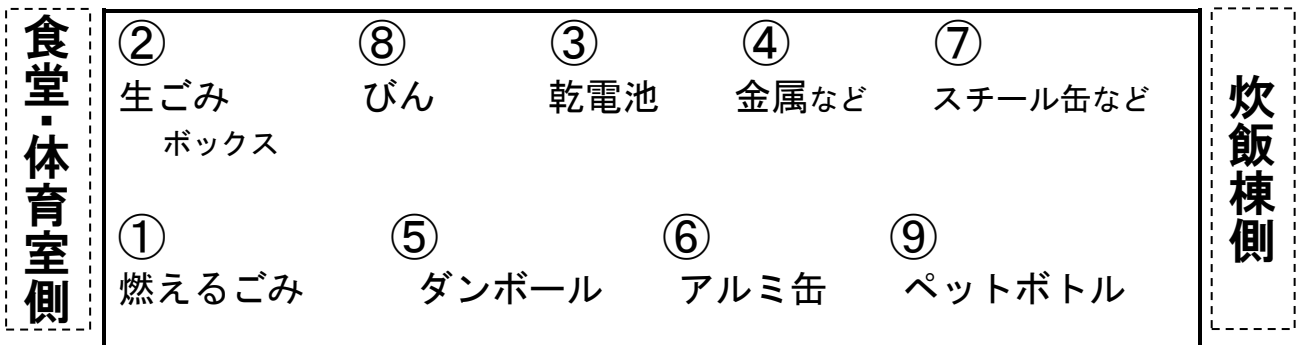
平成29年4月

種 類		出 し 方	指 定 袋
可 燃	①燃えるごみ	・パックを重ねるなど小さくまとめる。 ・なるべく水気をきる。	必 要
	②生ごみ	・生ものを含む可燃ごみは専用ボックスへ。	
不 燃	③乾電池	・なるべく使いきって廃乾電池入れへ。	不 要
	④金属・陶器・ガラス	・可燃ごみを取り除き、小さくまとめる。 ・スプレーは穴をあける。	
資 源	⑤ダンボール	・折りたたんで重ねておく。※複数枚はヒモで縛る	
	⑥アルミ缶	・すすいで水気をきる。	
	⑦スチール缶・缶詰	・汚れているものは洗う。	
	⑧びん	・キャップをとり、中をすすぐ。 ・透明・茶色・その他の3つに分ける。	
	⑨ペットボトル	・キャップとラベルは、燃えるごみへ。 ・中をすすぎ、水気をきる。	

※指定袋は事務室で購入できます。

[45ℓごみ袋 60円/枚、30ℓごみ袋 40円/枚]

<ごみステーション配置図>



■灰などの片付け方 ※確実に火を消した状態で処理してください。

場 所	燃え残りの薪	炭 と 灰
炊 飯 場	炊飯棟の正面側のカマドに置く	灰缶に処分
ファイヤー場	場内の指定場所に置く	別紙のキャンプファイヤー資料をご確認ください。